

令和4年度 赤十字奉仕団委員長・地区分区担当者会議をハイブリッド形式で実施!

秋田市赤十字奉仕団・大仙市中仙奉仕団がコロナ禍において、

・これまで当たり前できていたことができなくなり、

・気が付くと、地域の会館での活動も少なくなり、聞こえてくるのが、とても寂しいこと。

さらにコロナ禍において本当に人と会うことが減ってしまい、

そんな中「今、わたしたちができることを模索し、考え・実行したこと」を

発表いただきました。



発表後、参加者から感想をいただきました。

○地域奉仕団委員長：「いつもはるか先を走っている先輩に少しでも近づくことができるように今日も新たな力が湧いてきました」「これはイベントではなく、細く長くずっと続けていきたいと思えます。」という言葉に、本当に続けて行くことが大事だと感じた。



○地域奉仕団委員長：「奉仕団活動は、人のことを思いやるのが基本、工夫して時間を捻出し、頑張っておられる姿、人の為にもなります。そして自分の学びにもなる。いろいろな課題はあるものの、自分達もできることを実施していきたい。」



○芸能奉仕団委員長：「いま、このコロナ禍においてここ数年、活動が難しくなってきた。もし、皆さんのサロンなどの活動時、声をかけていただきますと、一緒にお手伝いさせていただきたいと思う。ぜひ私たちとも仲良く一緒に活動を」



まとめ

- ・赤十字ボランティアの活動目的は「人道の実現です。
- ・自発的な活動をするうえで大切な事は“気づき”です。特に、赤十字ボランティアの活動に際して求められるのは“他者への気づき”です。
- ・本日の研修会の“気づき”を、団員の皆様へ伝え、“ちょっとしたおせっかい”、“豊かな経験”などのエッセンスを加え、皆様の地域づくりに生かしていただきたい。